

発行:2026 年 10 月 22 日

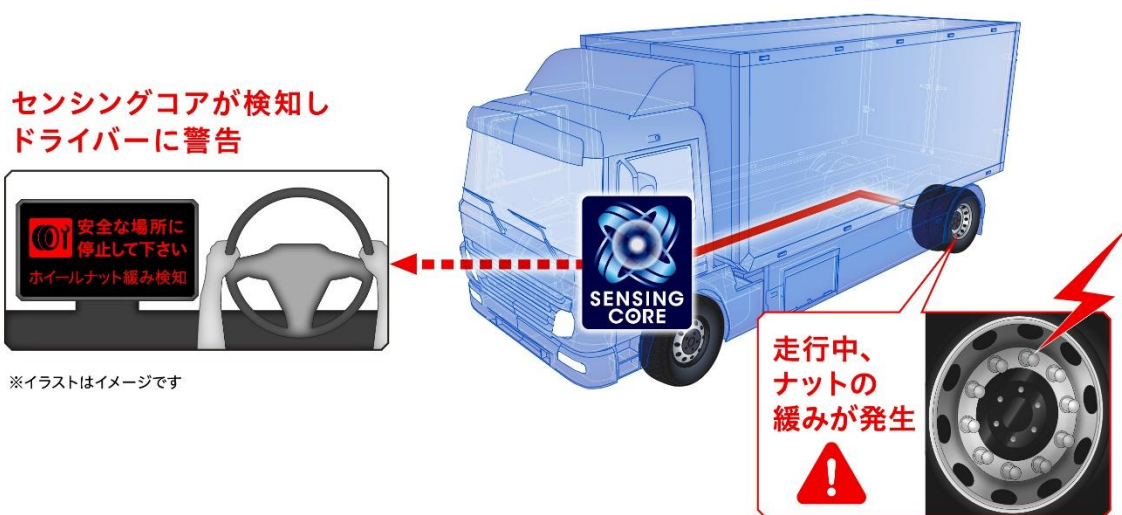
独自のソフトウェア技術「センシングコア」の搭載車両を拡大 ～いすゞ自動車の中型トラック「フォワード」に車輪脱落予兆検知を展開～

DUNLOP（社名：住友ゴム工業（株）、社長：國安恭彰）の、タイヤや車両、路面の状態を検知する独自のセンシング技術「センシングコア」が、中型トラックに採用され、10月22日より販売されました。

搭載車両は、いすゞ自動車株式会社の中型トラック「フォワード」※のうち、車両総重量（GVW）14.5t以上の車型で、同車両にはセンシングコアの一機能である「車輪脱落予兆検知」を備えたシステムが標準装備されます。

「センシングコア」技術概要と提供価値

センシングコアとは、タイヤ空気圧低下警報装置「DWS（Deflation Warning System）」で培った知見を基盤にしたソフトウェア技術です。タイヤの回転により発生する車輪速データと車両に流れるCANデータ（車両制御情報）を解析することで、タイヤの空気圧、摩耗状態、荷重や路面状態、車輪脱落予兆などを検知します。このたび中型トラック「フォワード」に搭載された車輪脱落予兆検知は、走行中のホイールナットの緩みを検知するシステムであり、異常検知時には警告表示とブザー音でドライバーに注意を促します。これにより、従来の点検や経験を通じた検知に加え、走行中でもナットの緩みを検知できるようになり、車輪脱落事故の未然防止に大きく貢献することが期待されます。



※イラストはイメージです

車輪脱落予兆検知イメージ図

<搭載車両概要>

いすゞ自動車の「フォワード」は、物流現場の多様なニーズに応える幅広いラインアップを備えた中型トラックです。優れた燃費性能による経済性・環境性能と、充実した先進安全装備により、安全・安心な物流を支えます。今回のラインアップ拡充により、さらに多様な輸送ニーズに対応し、お客様のビジネスと物流の発展に貢献します。



FORWARD

車輪脱落予兆検知機能の搭載背景

中型トラックは、地域配送や幹線輸送、建設・工事用途など幅広い分野で活用され、日常生活や経済活動を支える重要な輸送手段です。市街地や幹線道路などさまざまな道路環境を走行することから、車輪脱落事故が発生した場合には、歩行者や自転車利用者も含む第三者に重大な被害を及ぼすおそれがあります。そのため、安全性向上への社会的要請が高まっています。

車輪脱落事故の防止には、適切な日常点検や増し締めなど、従来からの基本的な点検・整備が重要です。一方で、ドライバーが走行中にホイールナットの緩みに気づくことは難しく、異常の兆候を早期に検知する技術が、さらなる安全性向上のために求められています。

こうした背景のもと、当社は「センシングコア」の機能の一つである車輪脱落予兆検知を中型トラック向けに提供し、車両の異常の兆候を早期に検知することで、中型トラックのさらなる安全性向上と車輪脱落事故の未然防止に貢献します。

当社は 2026 年より、コミュニケーションブランドを DUNLOP に統一しました。

DUNLOP は、「挑戦を支える安心」「期待を超える体験」「限界への挑戦」という 3 つの提供価値を、すべての商品・サービスで体現し、革新的な体験を通じて世界中の人々にポジティブな感情を生み出すことを追求していきます。

ブランドステートメント「TAKING YOU BEYOND」には、挑戦するすべての人々の可能性を広げ、その先へ導く存在であり続けるという想いを込めています。



※ いすゞ、中型トラック「フォワード」のラインアップを拡充～特装系シャシを追加、車輪脱落予兆検知システムを新たに展開～
(2026 年 10 月 22 日発行リリース) https://www.isuzu-global.com/ja/newsroom/20261022_1.html

以上